

第3回 孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム幹事会 お打合せ記録

■日時：令和4年5月31日（火）16:00～17:00@Zoom

■参加者：

- 幹事団体は参加団体一覧を参照（しんぐるまざず・ふぉーらむ 赤石理事長はご欠席）
- 内閣官房 孤独・孤立対策担当室：室長 大村慎一、次長 北波孝、参事官 石川賢司、参事官 田村真一、参事官 澤瀬正明、政策参与 大西連、参事官補佐 高橋範充、参事官補佐 ◆◆川晃
- RCF：前田絵麻、浦山泰之、渡辺朱音、西川紗祐未、田中亜季実（以下、敬称略）

■決定事項

- ・会員募集について、今後は資料 1-1 に基づいて募集を行う。・広報について、個別の取組にて広報を行う場合、事務局と広報担当幹事へ共有し、統一的な広報活動を行う。
- ・広報について、現在の担当幹事はあなたのいばしょ 1 団体であるため、意向のある方は事務局へお声がけいただく。
- ・6月27日開催の分科会 1 全体会にて、あなたのいばしょの NHK 取材が行われる。
- ・入会業務について、資料 1-2 の通り改訂する。

■意見交換要旨

2. 議題

(1)担当幹事からの報告

□会員募集について（資料 1-1）

- ・内閣官房 吉川）資料 1-1 に基づいてご説明。

PF の認知を広げることの一つに会員募集があり、その会員募集に取り組むためには方向性の一致が必要であるため、皆様の意見を頂戴したい。今後の広報については、PF の写真掲載等、皆様の意見を踏まえて広報担当にて更新する想定。何かご意見があれば、メールでも問題ないため頂戴したい。今後の会員募集は 市区町村（協力会員）と企業（賛助会員）を増やしていく方向性として、現時点では本内容について発言のある方はいないため、本内容にて進めさせていただく。

・あなたのいばしょ 大空) 以下 3 点、ご共有・ご依頼事項である。①PFとして広報担当をおいている。分科会や個別の取組で、広報するもの(イベントやフォーラムを開催したい等)がある場合、事務局と広報担当に共有いただきたい。共有はメールで構わない。個人のアカウントで個別に広報を行うと、PFの統一的な意思決定が出来ない、ターゲットが曖昧になる、余計な混乱や誤解が生まれる等といった可能性がある。そのため、事務局と広報担当にも共有し、統一的に広報活動をしていきたいと考えている。

②現在、広報担当はあなたのいばしょのみである。そのため、広報担当を担いたいという意向があれば、声をあげていただきたい。会議を週次で実施しているということもなく、そこまでの負担にはならない想定である。③あなたのいばしょにNHKの取材が入っており、6月27日開催の分科会1全体会に取材が入る予定である。幹事会で異論がない場合、そのように進めたい。→本内容について発言のある方はいないため、本内容にて進めさせていただく。

□入会業務の改訂について(資料 1-2)

・全国社会福祉協議会 高橋) 資料 1-2 に基づいてご説明。

→本内容について発言のある方はいないため、本内容にて進めさせていただく。

□第 1 回シンポジウム(資料 1-3)

・内閣官房 吉川) 資料 1-3 に基づいてご説明。開会挨拶を大臣へ依頼しており、当日のご対応が困難なためビデオメッセージを予定している。→本内容について発言のある方はいないため、本内容にて進めさせていただく。

(2)内閣官房からの報告

□事務局訪問記について

・内閣官房 吉川) 事務局訪問記について、これまで幹事団体を中心に訪問していた。お忙しい中ご対応いただき感謝申し上げます。現在、HPへ掲載作業中であり、また追ってご案内する。今後は、自治体・民間企業をはじめとした一般

会員にも訪問し、PFの取組にご協力いただけるよう働きかけていく想定である。

(3)分科会等

□分科会 1 について（資料 2-1）

- ・新公益連盟 井澤）資料 2-1 に基づいてご説明。

→本内容について発言のある方はいないため、本内容にて進めさせていただく。

□分科会 2 について（資料 2-2）

- ・全国社会福祉法人経営者協議会 宮内）資料 2-2 に基づいてご説明。→本内容について発言のある方はいないため、本内容にて進めさせていただく。

□分科会 3 について（資料 2-3）

- ・内閣官房 田村）資料 2-3 に基づいてご説明。
- ・内閣官房 大西）時間をかけて議論する想定であったが、緊急経済対策となったため急ピッチで進めている。6 月末～7 月頭ということで残り 1 か月であるため、実務的な詰めが必要で議論を進めているところである。準備期間が短い、皆様にもお力添えいただきたい。また、準備期間が短い中でどのようなパフォーマンスを出せるのか、第 1 期の試行期間は 1 週間という短い期間ではあるが出来る限り多くの方の支援につなげることも含め、色々な仕掛けが必要だと考えている。広報担当と一緒に推進するなど。また、相談につながった後の対応として、全国の支援現場やネットワークで一致団結し、
次のステップに繋

げるための検証の 1 週間として準備を進めたい。抜け漏れがないか心配であるため、声掛けしながら進めたい。本件は、事業ありきで動きながら決定していく部分が多い、ということは事前に皆様にお伝えする。

- ・自殺対策支援センターライフリンク 清水）難しさと可能性の両方を感じながら議論をしている。難しさについては、図式化は容易に出来るが、実践しようとするとなかなか壁が立ち上がる、という点。可能性については、入り口はこれまでの様々な分野の取組で増えているが、どう出口につなぐか、という課題はどの団体・どの分野も感じている部分である。入り口同士が緩やかな連携をすることに限らず、様々な分野・様々な地域の出口で活動している団体と入

り口がつながる、という可能性を感じている。大西氏のリーダーシップの下「やるしかない」という気持ちである。ライフリンクとしても出来る部分で積極的に関わっていきたい。また、分科会 2 と異なり分科会 3 は実践ベース

で議論している。そのため、どこかで提言・整理等のフィードバックをいただくことができれば、意識しながら実践を試みることができると考えている。・あなたのいばしょ 大空) SNS の進め方を確認したい。

→内閣官房 田村) 統一的な体制ということだが、SNS を統一することは難しいと考えている。一方で、統一ダイヤルで相談から支援につなげる部分を、各団体だけで推進することは難しいと聞いている。そのため、何らかそのようなものが出来るように、調査研究の枠組内で SNS を利用した対応ができないかと

3

考えている。第1期は難しいと思うため、第2,3期で何らかの形でやれると良いと考えている。また改めて密な体制で相談していきたい。

→あなたのいばしょ 大空) SNS と一概にいても、ツールによって異なるため、統一は技術的に不可能である。整理しながらコンソーシアムに来ていただき、議論できると理解した。SNS は慎重に議論していただきたい。

3. その他

・自殺対策支援センターライフリンク 清水) 重苦しい空気を打破して進めたい。これまで実施したことのない試みをこのメンバーでやろうとしているため、ワクワク感を持ちながら進めたい。

→あなたのいばしょ 大空) チャットも議論が盛り上がる要素の一つ。皆様に進めていけると良いと考える。

→内閣官房 吉川) 肩の力を抜いてお話ししていきたい。発言がない団体から感想があればお伺いしたい。

・日本いのちの電話連盟 堀井) 分科会 3 の議論に参加している。早急に進めるため、実務の話をするに行っていないととまらず、今現在協力者を求めているところ。電話か SNS か等、利用者がどうするのか、といった話がある。色々な方法やツールを利用していくことは難易度が高いと感じている。また、いのちの電話は全国に 50 センターあるが、全センターが協力することは難しい。現在は連盟が一つ入っているだけだが、全センターが参加するとややこしくなる懸念があり、分科会 3 で相談させていただきたい。早急に、という焦りと、実務でまとまる必要があるということで、皆様にも協力いただきたい。

・社会的包摂サポートセンター 遠藤) 実務を担当している。どのような仕組みを利用し、どのようにアクセスし、どのような広報を行い、どのように国

のお金を活用し請求書・領収書等を準備するのか、等を考える立ち位置にいる。

分科会 3 では実務が頭を駆け巡っている。また、初めての取組をやるようになった際に、発言しやすい工夫、ジェンダーバランスの考慮、等が必要。別の場で、暴力被害の問題で発言しにくい人もいる、という話が出た。そういった点も基本的な知識として持っておいていただきたい。発言の場所の安全を保つ仕組みは組織的に持っておくべきであるため、事務局にも情報提供していきたい。

・子育てひろば全国連絡協議会 奥山) 幹事会は進捗確認の機会だと理解しており、分科会 3 の緊急性は把握した。時間的余裕がある分科会・検証しながら進める分科会、というように分科会毎に時間軸があることを理解した。子育てひろばは、場所があったうえで相談を受けているが、分科会 3 は全国から 1 か所に相談内容を集めてから分けていく、と理解した。それぞれの地域で実施していることと、どのような入り口でも受け止められる体制を構築する、を上手く

4

マッチングできる体制が出来たら理想的であり大事なところだと考える。子育てひろば全国連絡協議会としては、全国では、会員は 1,300、全体としては 7,800 といった地域子育て支援拠点がある。そのような団体があることを皆様にお伝えいただけると良いと感じた。今後について、孤独・孤立の解決策の一つかもしれないが、住宅問題が大きいと考えている。海外では世代・ニーズを越えて大きなシェアハウスなどに住んでいる。それぞれの世帯がつながりあって生活している。これからは単身世帯が増えるため、この団体で新しいものを生み出す、といったことも将来的に出来たら嬉しいと感じている。

・生活困窮者自立支援全国ネットワーク 奥田) 住宅問題は、箱(=ハード)とソフトがある。ソフトとして、従来家族が担ってきた機能が、単身化が進んだり家族が脆弱化した結果が現象として現れている。単身世帯が現在のトップ。住宅施策は建物の話に聞こえるが、単身世帯を前提に考えると、関係重視=家族機能を他人がどう担うか、整合性や客観性が担保されているといった仕組みが必要。分科会 2,3 を担当しているが、分科会 2 でも同様の内容を議論した。分科会 1 の対象者層の議論とも被るが、所謂問題+孤独・孤立がセットになっている人と、問題はないが地域で孤独・孤立の中にいる人、の 2 層ある。相談窓口は問題を抱えているが相談できない人がメインターゲット。しかしその手前に、すぐに解決する必要はないが孤独・孤立を抱えている、見方を変えるとそれこそが困難である、という人がある。そうなった

場合に、会員一覧で、各省庁が行っている施策の横連携できていない中でどう有機的にするか、という話と、賛助会員を増やして日常性を担保した事業をしている団体が孤独・孤立のテーマにとってどのような意味を持つのか、という話がある。日常の中にいるのは賛助会員の企業。日常のプレイヤーが賛助ではなく会員になっていく、つまりPF自体をどう使っていくのか、という議論が先々には出来たら良いと考える。現時点では幹事に特化しており、また現時点ではそれが大事だが、今後PF会員全体でチームになっていけるのか。今のままでは勿体ないため、その辺りは期待している。

・全国フードバンク推進協議会 米山) PF活動は初めての取組。色々調整など協議も必要だが、時間的猶予もないため、ある程度トライ&エラーで完璧を目指すのではなく、PF内で積極的にスピード重視で取り組むことを許容する雰囲気があると色々取組が早く進むのではないかと感じた。また、全国フードバンク推進協議会では、社会的養護に取り組む団体と、継続的な食糧支援についてコミュニケーションをとっている。今後連携を深めていきたいが、会員団体に社会的養護の団体がほとんど入っていないため、厚労省などから案内を出していただけるとありがたい。

・日本NPOセンター 吉田) 孤独と孤立があるが、問題を突き詰めていくと、孤独・孤立自体ではなく孤独・孤立から派生する問題が起きるため問題だと考え

5

ている。予防の話と、居場所をつくる話と、問題を端的に解決する緊急性の高い話、で大きく異なると考えている。この辺りの整理をしながら議論を進めないとフォーカスが当たらないと感じている。官民連携という点でも、緊急性が高いものは制度でしっかり対応が必要。制度内の官民連携の話と、その外側で民間の独自性を活かすために官がどう後押しするか、で雰囲気が異なると感じている。引き続き、大まかな地図の解像度を上げることと、具体の動きをつくることの往復ができると良いと考える。

以上

